

■北海道大が北海学園大に競り勝つ。春季オープン戦

春季オープン戦第3日は6月14日、札幌市円山競技場で、すずらんボウルの冠試合として2試合を行った。北海学園大（昨秋の道学生選手権優勝）－北海道大（同3位）は、ラン攻撃の層が厚い北海道大が21－12で競り勝った。2部校同士の対戦となった北海道科学大（昨秋の道学生選手権2部優勝）－北星学園大（同2位）・札幌学院大（同3位）合同チームは、北海道科学大が25－0で快勝した。第4日は7月6日（日）、札幌市円山競技場で東京農業大－帯広畜産大、北海学園大－釧路公立大の2試合を行う。入場無料。



4年生QBの対決が注目された北海学園大－北海道大は、北海道大が第2Q4分にRB谷口遼馬（2年）の5ヤードランで先制すると、北海学園大も同10分、RB加藤真之助（4年）の2ヤードランでTD。前半を7－6で折り返した。後半は、北海道大が第3Q2分にRB下島圭太郎（3年）の3ヤードラン、第4Q3分にはQB神田智史（4年）からTE伊勢崎仙太郎（2年）への1ヤードパスで21－6とリードを広げた。

北海学園大も終了間際の同11分にQB成田滉佑（4年）からWR神林駿太（2年）への15ヤードTDパスで21－12と追いつけたが、及ばなかった。

北海道大の樋之本彬HCは「前半のターンオーバー、相手QBに走られすぎたことが課題。今日は相手のミスにも助けられた。RB下島は1対1で相手を跳ね返す走りを指導している」と試合を振り返り、「ディープゾーンのパス守備など、攻守ともにパスが課題」と総括した。室蘭工業大戦（6月1日）に続いてTDランのRB下島は「試合後半はいい走りができたが、立ち上がりがよくない。今年は先輩OLやQBを助ける走りを目指したい」と力を込めた。

北海学園大の高木幸樹HCは「1年生をいっぱい試合に出せたのが成果。RB加藤に求めているのはもっと上のレベル。控えのメンバーの完成度をもっと引き上げたい」とチーム作りの課題を挙げた。今季からRBに転向したRB



加藤は「今日は良かった点と悪かった点がある。TDは相手守備と味方ラインのおかげ。次は自分が盛り上げ、チームを勢いづかせたい」と決意していた。

北海道科学大―北星学園大・札幌学院大合同は、北海道科学大が第1Q6分、ワイルドキャット陣形からRB竹内連也（3年）の28ヤードと19ヤードの2連続TDラン、第2Q3分のQB竹内一晴（3年）の4ヤードキープTD、第3Q2分のRB/K浅木晶斗の31ヤードFGで23―0とリード。第4Qには好パントで北星学園大・札幌学院大合同の攻撃を敵陣1ヤードに追い込むと、守備チームが相手RBをエンドゾーン内でタックルしてセーフティーを奪い、25―0で完封勝ちした。



北海道科学大の三島孝信コーチは「ワイルドキャットはRBの走力を生かすのが狙い。秋の入れ替え戦に向け、今日は1年生たちに経験を積ませられたのが収穫」と手ごたえを実感。2TDランのRB竹内連也は「目標は5TDだったが、得意のオープンランを出来た。秋に入れ替え戦で1部に勝つのが目標」と言い切った。



北星学園大の戸田元基監督は「パスレシーブしたWR前鼻俊哉など1年生が多く入部し、試合にも出た。若いチームなので成長が楽しみ」と今後に期待。QB伊藤昊咲（2年）は「スクランブルのランとロールアウトからのパスが見えてきた」と自信を深めた。札幌学院大のOL/DL小山琉斗主将は「1年生が多いので実戦経験を踏まえ、去年よりヒットを強くしたい」と決意していた。

（学連広報委員 塚田博）